



総務文教委員会の活動報告

総務文教委員会は、10月10日～12日に福岡県久留米市・八女市・佐賀県武雄市の視察研修を実施しました。

『久留米市』（福岡県）
防災対策の
取り組みについて

今回、久留米市を視察先とした理由は、2018年7月に西日本を襲った大豪雨による冠水被害に対して行政はどう対処したか、そして今後の取り組みについて聞くことにより、伊那市の防災（特に水害）にも活かせる事があるのではないかと考えたからです。水害発生メカニズムが、天竜川水系に多く見受けられる堤防から水が溢れたり決壊による外水氾濫と違い、増水した筑後川に支流が水を放出出来なくなり溢れ

出すといった内水氾濫である事から、水害に対する装備などの違いはあるものの、避難情報やマニュアル作成などソフト面では十分参考になりました。

さらに、過去のデータの蓄積から各支流、上流の降雨量から数時間後の下流での溢水量を予想し、避難指示を早めに出すといった手法が取られています。また、防災士を各区ごとに数名おくことを行政が指導しており、防災士資格取得費用を全額補助するなど、伊那市でも見習うべき点が多く見受けられました。

『武雄市』（佐賀県）
ICT教育について

武雄市では、平成25年度に全国に先駆けてICT教育の推進の検討を始め、平成26年4月にはすべての小学校に、翌年にはすべての中学校に、1人1台のタブレットを導入しています。タブレットを使って事前に家などで学習をした上で、学校ではその理解度にあわせて、先生が授業の中で質問に答えたり、補足をしたりしながら学習のみんなで話し合い、さらに学習を深めていきます。これまでの学校の授業形態を反転させることから、「反転授業」といわれています。

こうした取り組みをする中で、日経BP社による「公立学校情報化ランキング」で、小学校は全国1位、中学校でも2位という結果が出ています。この



武雄市での視察の様子

取り組みでは、タブレットによる事前学習のための動画や資料作りに、先生方の相当の労力が必要となりますが、武雄市では民間の企業から協力を受け、資料作りだけでなく、インフラについても様々な提供を受けて実施されているとのこと。子ども達は、事前学習の動画や資料を何回も見ながら、自分のペースで楽しくわかりやすく学習する事ができ、学習意欲の喚起にもつながるとのことです。

将来的には、遠隔地や海外との交流や、学校に来ることのできない子どもへの学習指導にも役立つとのこと。

『八女市』（福岡県）
予約型乗り合いタクシー
「ふる里タクシー」
について

八女市では、地域公共交通協議会が行っている、八女市予約型乗り合いタクシー「ふる里タクシー」の運行状況についての視察をしてきました。

八女市は6市町村の合併により、福岡県で2番目に広い面積の市になりました。交通空白地域を解消し、同じ経費で市

民生活の質向上を実現するためにデマンド型乗り合いタクシーを導入したところ、アンケート調査で80%の人が「暮らしが便利になった」と回答し、38%の人が「外出機会が増えた」と回答しています。また、乗り合いタクシーは、定時定路線の乗り物ではないため、通勤通学の利用は不適と判断し、朝夕の時間帯は現行通り路線バスを運行しています。

「ふる里タクシー」を利用するためには、受付・配車業務をスムーズに行うため、事前に予約や登録が必要です。利用料金は同一エリア内であれば、1回の乗車につき、300円です。伊那市でも買い物弱者の対策が課題となっており参考となりました。



配車予約受付をするオペレーター